

新ガイドンス施設

## 弥生の館むきばんだオープン

鳥取県立むきばんだ史跡公園に新ガイドンス施設「弥生の館むきばんだ」が4月4日、オープンしました。オープニングセレモニーは多くの人が見守る中、米子西高等学校吹奏楽部のファンファーレ演奏にリードされ、関係者によるテープカットやクス玉割りで施設の開館を祝いました。



▲テープカットで開館した弥生の館むきばんだ  
(写真左から小谷茂県会議長、森田増範大山町長、平井伸治鳥取県知事、北尾慶治米子市教育長)

このガイドンス施設の特徴は、弥生人の生活ぶりを復

元した道具などを手に触わり体感しながら見学できることで、屋外の展示と合わせてより実感的に弥生時代の暮らしを理解することができます。

2千年前の弥生時代の歴史ロマンを感じるむきばんだ史跡公園に出かけてみませんか？



▲館内の様子。復元土器も触れます。

子どもの成長を喜ぶ

## 赤ちゃんハイハイ競争

3月15日保健福祉センター大山で、家族で子どもの成長を実感し、子どもの健やかな成長を喜ぼうと赤ちゃんハイハイ競争が行われました。当日は80人もの乳幼児が集まり、それぞれの発達段階に応じてハイハイクラス・ヨチヨチクラス・はしりっ子の3つのクラスに分かれ、ゴールのテープを目指しました。

なかには途中で泣き出してしまったり子どもや、転んでしまったり子どももいましたが、見守る家族の声援に包まれながら精一杯ゴールを目指して頑張りました。またゴールには色とりどりの風船が用意されていて、ゴールした子どもは好みの風船を手にしてニッコリと笑っていました。



▲頑張れ！頑張れ！ゴールは目前、ここが最後の頑張りどころ！

この日、町内に5つある子育てサークルや愛育委員さんたちによる子育てサークル合同ふれあいフェスタも同時に行われ、ハイハイ競争の後には、さかなつり遊びやお買い物ごっこなどで楽しく過ごしました。

## うららかな春の大山口農具市



▲露天でも農具の品揃えは豊富です。この農具の露天こそ、伝統のイベントの中心です。

▼大山口駅前の特設ステージでは演芸会が行われ、農具市の賑わいを一層盛り上げました



今年で80回を迎える伝統の大山口農具市が、うららかな春の日差しのもと大山口駅前で行われ、その名のとおり道の両側に鎌や鍬などの農具を扱う屋台が並んだほか、たこ焼きなどお祭りでお馴染みの屋台も並び賑わいました。